

【野菜部門 令和6年度 参考となる研究成果】

事項名	県内のながいもで初めて確認されたツマグロアオカスミカメによる被害の特徴		
ねらい	令和5年7月及び9月に県内のながいもで、茎葉の枯れ、褐色の斑点及び奇形症状が認められたため調査したところ、被害の原因はツマグロアオカスミカメであることが明らかになったため、その特徴を示し、防除対策上の参考に供する。		
内容	<p>1 被害発生状況（表1） 発生地点：三八、西北、上北地域4地点4農家圃場 作型：露地栽培 発生時期：7月中～下旬、9月上旬 発生程度：少～多 害虫発生源：圃場周辺の雑草と考えられる。</p> <p>2 被害の特徴 ながいもの茎葉に褐色の斑点状の吸汁痕が発生する。新葉が被害を受けると、奇形を保ったまま展開し、大小の穴が空くことがある。つる先端の生長点が継続的に被害を受けると、つる先端が枯死し、伸長が停止する（写真1）。</p> <p>3 ツマグロアオカスミカメについて 農研機構・植物防疫研究部門の協力の下、五戸町上市川のながいも圃場で捕獲されたカメムシを、外部形態及び雄の挿入器硬化部の形態の検鏡により同定を行った結果、ツマグロアオカスミカメ (<i>Apolygus spinolae</i>) と同定された。</p> <p>(1) 成虫の主な特徴（右写真） 体長：約4.5～6mm 色彩：背面は全体的に淡緑色、前翅膜質（右写真矢印）は淡褐色を呈する。 ※ツマグロアオカスミカメは近縁種のコアオカスミカメ (<i>A. lucorum</i>) と外部形態が酷似するため、正確な種の同定には雄の挿入器硬化部の検鏡が必要であるが、生態的特徴が類似しているため現地圃場では現時点で識別する必要性は低い。</p> <p>(2) 寄主植物 ヨモギ類のほか、ホザキシモツケ、オニシモツケ、イラクサ、ハギ類、ニワトコ、ハシドイ及びヤナギ類など、多種多様な植物に寄生し、茶、なす、アスパラガス、いちご、ぶどう、りんご、ひまわり及びきくなどの作物を加害することが知られている。また、野菜研究所の無防除のごぼう圃場で幼虫及び成虫の発生を確認している。</p> <p>4 防除対策 発生源となる雑草を圃場及び周辺に繁茂させない。</p>		
期待される効果	ながいもの茎葉部被害の原因と特徴を明らかにすることにより、被害防止を図ることができる。		
利用上の注意事項	<p>1 カメムシ類に登録のある農薬は令和6年1月17日現在ない。</p> <p>2 被害が疑われた場合は、農業普及振興室、病害虫防除所又は試験研究機関に相談する。</p>		
問合せ先（電話番号）	野菜研究所 病害虫管理部 (0176-53-7085)	対象地域及び経営体	県内全域のながいも作付経営体
発表文献等	令和5年度 野菜研究所試験成績概要集		



【根拠となった主要な試験結果】

表 1 県内においてカメムシの発生がみられたながいも圃場の茎葉被害発生状況(令和5年 青森野菜研)

発生場所	確認時期	程度	被害の様子	圃場及び周辺的环境	防除の状況
五戸町 上市川	7月17日	多	圃場のほとんどで茎葉に被害がみられ、カメムシが多発していた。	発生圃場は、雑草が繁茂した休耕畑に隣接していた。	殺虫剤 散布なし
五所川原市 金木	7月13日 ～ 9月上旬	中	むかごを植えた圃場ではつる先端の食害の影響が大きく、つるの伸長が停滞し、収穫されたいもは比較的小さかった。カメムシの寄生はつる先端付近で多かった。	発生圃場付近の空地にアレチノギク等の雑草が繁茂していた。	通常防除
七戸町 宇道坂	7月10日	少	生長点付近の茎葉の被害がまばらにみられた。	発生圃場は雑草が多かった。また、雑草が繁茂した休耕畑に隣接していた。	通常防除
七戸町見町	7月28日	甚 (局所的)	隣接した休耕畑の雑草の刈り取り後から休耕畑付近のながいもで局所的にカメムシの寄生と被害が多発した。	発生圃場は、雑草が繁茂した休耕畑に隣接していたが、被害確認時はすき込まれていた。	通常防除

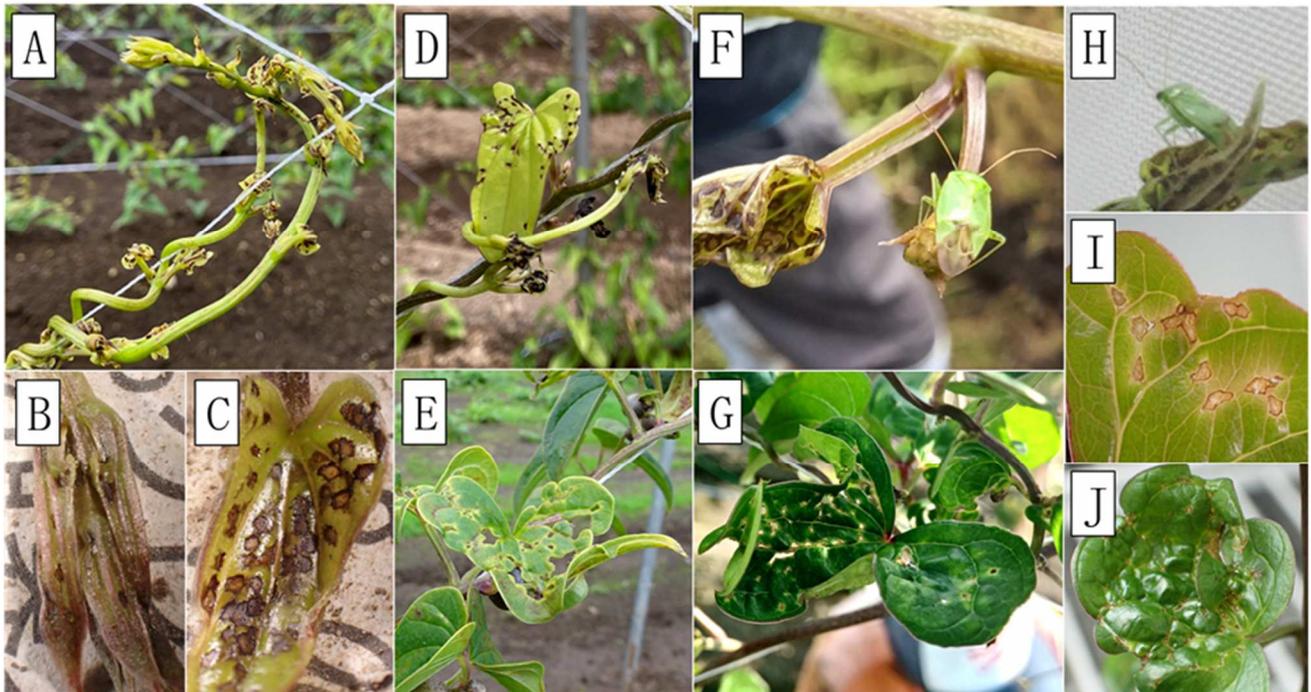


写真1 ながいも茎葉の被害及びカメムシ

(令和5年 青森野菜研)

A、B、C：五戸町上市川圃場で7月18日に確認された茎葉被害。

D、E：五所川原市金木で確認された茎葉被害。Dは7月13日、Eは10月5日に確認。

F：七戸町宇道坂で7月10日に確認された葉の被害及びカメムシ。

G：七戸町見町で7月28日に確認された葉の被害。

H：放飼試験において1日後に確認された葉の被害及びツマグロアオカスミカメが口吻を突き立てる行動。

I：放飼3日後の葉の被害。

J：放飼14日後の下位葉の被害。